

神経精神科

研修プログラムの目的および特徴

目的：研修期間中に精神神経科領域における医療人として必要な基本的診察能力・態度、すなわち、精神症状の把握、基本的な精神神経疾患の診断と治療、チーム医療、医療面接（特に精神科面接）、精神医療の社会性などを習得する。

特徴：研修期間中に少なくとも、A疾患（統合失調症、気分障害、認知症）の入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針を検討してレポートを提出する。精神科診断、精神療法、薬物療法、身体療法（電気けいれん療法など）および、精神科作業療法などの精神科リハビリテーションを経験する。研修期間に応じて、専門外来やコンサルテーション・リエゾン診療への参加、関連病院における精神科専門療法や社会復帰訓練の見学などを通じて、幅広い精神科医療を学ぶ。また、脳科学に興味がある場合は、別途、精神科臨床・脳科学プログラムを提案する。

研修指導医

竹林 実（教授）：精神保健指定医、精神保健判定医、精神神経学会専門医・指導医
（研修実施責任者） 一般病院連携精神医学（リエゾン精神医学）特定指導医

朴 秀賢（准教授）：精神保健指定医、精神保健判定医、精神神経学会専門医・指導医
日本医師会産業医

福原竜治（講師）：精神保健指定医、精神神経学会専門医・指導医
老年精神医学会専門医・指導医

石川智久（助教）：
（研修指導担当者）

遊亀誠二（助教）：精神保健指定医、精神神経学会専門医・指導医
老年精神医学会専門医・指導医

本田和揮（特任助教）：精神保健指定医、精神保健判定医、精神神経学会専門医・指導医、
老年精神医学会専門医・指導医、

佐々木博之（特任助教）：精神保健指定医
（研修指導担当者）

宮川雄介（特任助教）：精神保健指定医

森枝 悟（特任助教）：精神保健指定医、精神神経学会専門医・指導医

研修到達目標

一般目標：患者の全人的理解を基本とする診療姿勢・コミュニケーションスキルを身につける。
精神疾患の診断・治療のプロセスを理解し、身体科との連携によるリエゾン精神医学を習得する。

行動目標：

- 1) 基本的な面接を行うことができる。
- 2) 基本的な精神症状をとらえることができる。
- 3) 基本的な神経症状、画像所見をとらえることができる。
- 4) 簡単な精神療法、基本的な精神科薬物療法を行うことができる。
- 5) 身体療法（電気けいれん療法など）の適応を理解できる。
- 6) 精神疾患に対する初期的対応と治療などのチーム医療に参加することができる。
- 7) リエゾン・コンサルテーションを通して、診療科横断的な視点を持つことができる。
- 8) 患者の抱える課題を身体的のみならず心理社会的側面からも理解できる。
- 9) 精神疾患を脳科学の視点で理解できる。

週間スケジュール

	午 前	午 後
月	新入院患者カンファレンス 病棟総回診	病棟実地研修・症例検討会・ジャーナルクラブ 精神科セミナー
火	病棟実地研修 外来研修	老年精神医学専門外来研修 病棟実地研修・精神科リハビリテーション研修
水	病棟実地研修 外来研修	気分障害専門外来研修 病棟実地研修・精神科リハビリテーション研修
木	病棟実地研修 外来研修	気分障害専門外来研修 病棟実地研修・精神科リハビリテーション研修
金	病棟実地研修 外来研修	児童・思春期専門外来研修 グループカンファレンス
毎日	コンサルテーション・リエゾン精神医学研修	

【選択コースの特徴】

1～2ヶ月コース

A疾患の入院診療を中心に、基本的な精神科面接、診断、治療の研修ができる。

3～5ヶ月コース

専門外来（気分障害、老年期精神疾患、児童/青年期精神疾患）への参加ができる。他科との連携によるリエゾン精神医学の研修ができる。神経学的所見の取り方や脳画像所見の見方、各種心理検査についての研修ができる。

6～8ヶ月

身体療法などの専門治療、精神科リハビリテーション、熊本大学関連の精神科専門病院における重症例・難治例への専門治療の見学、認知症およびうつ病の疫学調査研究、脳科学による気分障害・統合失調症の研究（熊本大学分子脳科学講座との連携含む）ができる。